

## 重点事業 平成17年度取組状況評価、平成18年度取組方針シート

|                  |   |
|------------------|---|
| <b>事業名</b>       | <b>放課後キッズクラブ事業</b>  |
| <b>担当局・課名</b>    | 子育て支援事業本部放課後児童育成課（平成18年度より、こども青少年局放課後児童育成課）   |
| <b>プランでの位置づけ</b> | 視点1 青少年の自立と成長を促す機会づくり 目標 安心して気軽にくつろげる居場所の提供<br>重点的に取り組む事項1 青少年が安心して気軽にくつろげる居場所をつくります！ |

### 事業の目的及び概要

小学校施設等を活用し、すべての児童を視野に入れ、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを実施します。

### 各年度の実績(概要)

|      |  |
|------|--|
| 16年度 | 9月から9区9か所で事業開始(平成17年3月末登録児童数:2,080人)                 |
| 17年度 | 9月から新たに9区9か所で開始し、18区18か所で事業実施(平成17年12月末登録児童数:4,538人) |
| 18年度 |  |
| 19年度 |  |
| 20年度 |  |
| 21年度 |  |
| 22年度 |  |

### 17年度の取組内容

|  |         |            |       |
|--|---------|------------|-------|
| <p>17年度の目標:<br/>9月から新たに9区9か所で開始し、全区18か所で事業を実施する。<br/>なお、運営にあたっては、これまでの公益法人及び社会福祉法人に加え、NPO法人を委託先とし、様々な法人の有しているノウハウや人材を基盤に、地域の理解と協力を得ることによって、さらなるプログラムの充実を図る。</p>  |         |            |       |
| <p>17年度取組実績:<br/>9月から新たに9区9か所で開始し、全区18か所で事業を実施した。(平成17年12月末登録児童数:4,538人)<br/>なお、運営にあたっては、これまでの公益法人及び社会福祉法人に加え、大口台小(神奈川区)及び藤塚小(保土ケ谷区)については、地域で放課後児童育成施策に取り組むNPO法人を委託先とし、さらなるプログラムの充実を図った。<br/>また、平成18年度からの本格実施に向けて、区役所への事務移管、運営法人の選定基準及びスタッフ配置基準の明確化など準備を行った。</p> |         |            |       |
| 17年度予算額  | 17年度決算額 | 18年度予算額    | (備考欄) |
| 365,670 千円   | [ ] 千円  | 605,537 千円 |       |

### “青少年育成”の視点からの事業の自己評価

|                 |  |
|-----------------|--|
| (目標以上又は目標どおり達成) | (自己評価の説明)<br>アンケートやシンポジウム等の検証では、「友だちが増えた」、「様々な体験をすることができた」、「安心して過ごすことができる」といった評価を得ている。 |
| (目標の7～8割程度達成)   |  |
| (さらなる取組が必要)     |  |

### 18年度の取組予定

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童育成施策の中心的事業に位置づけ、18年度は新たに12か所で開設し、計30か所で実施。</li> <li>・運営主体が地域特性を活かし、自主的かつ柔軟に活動できるよう、事業方式を委託から補助へ変更する。</li> <li>・区における他の子育て支援事業、青少年育成事業等との連携を図る。</li> <li>・活動内容の充実を図るため、プレイパークや地区センターなどの公共施設との連携や、子ども会や子どもたちを対象としたスポーツクラブ活動との連携により、放課後の居場所のネットワークを構築する。</li> <li>・19年度の新規開設校の調整及び設計等の準備を行う。</li> <li>・放課後児童育成施策に関わる人材を確保し育成する。</li> </ul> |
|--|

### 青少年対策推進本部 評価・方針

地域の特性に合わせた形で幅広く居場所づくりが展開されるよう、地域・NPO団体等がそれぞれの力を発揮できる取組内容となっており、協働により効果的に事業が推進されるものと考えます。  
これにより、地域の児童のニーズに応える柔軟な取組が実施され、児童が気軽に利用できる居場所が増えることが期待されます。